

⑨ 仕上げ材

景観計画における形態意匠の基準

壁面等の仕上げ材は、耐久性があり、汚れにくく、変色しにくいものとする。

全地区共通

■解説

劣化や汚れ、破損しやすい仕上げ材の使用は、景観を損なうおそれがあります。そのため、耐久性に優れ、汚れにくく変色しにくい材料を使うことが必要です。

特に最近よく使われるコンクリート打放し仕上げは、施工状態やディテールの工夫により、年月が経つと表面の状態に大きな差異が生じます。

また、木素材等の自然素材は、経年変化による変色等を起こしやすく、景観を損なうおそれがあります。

そのため、耐久性に優れた素材の選定やメンテナンス方法も勘案し、景観上の工夫や配慮を行います。



打放しコンクリートの劣化・汚れ



カラーベストの劣化・汚れ・コケ



木素材のはがれ・劣化



吹きつけ素材の汚れ・劣化

⑩ 室外機、壁面設備

景観計画における形態意匠の基準

室外機は原則床置きとして、視点場から見えない位置に設置し、視点場以外の地区内の他の通りからもできるだけ見えないよう工夫する。また、壁面設備も目立たない工夫をする。

①～⑬景観計画重点地区

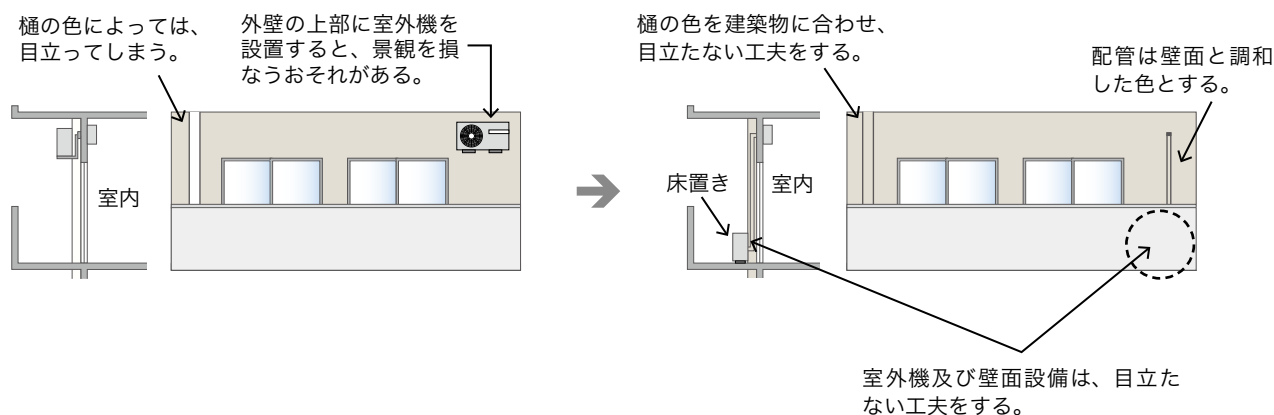
室外機は原則床置きとして、通りからできるだけ見えないよう工夫する。また、壁面設備も目立たない工夫をする。

⑭一般区域

■解説

室外機や壁面設備が視点場や通りから見える位置に設置されると、街並み景観を損なうおそれがあります。そのため、室外機や壁面設備は視点場等から見えない位置に設置し、また、目隠しをするなど目立たない工夫をして、すっきりとした景観をつくります。

また、樋は、壁面と同色にするなどの工夫が必要です。



※手すりの景観配慮の考え方は「⑪ パルコニーの洗濯物（次ページ）」を参照してください。

⑪ バルコニーの洗濯物	
景観計画における形態意匠の基準	
視点場から、原則洗濯物等が見えないようにする。また、視点場以外の場所や地区内の他の通りからも、できるだけ見えないよう工夫する。	①～⑬ 景観計画重点地区
通りから見える位置については、洗濯物等ができるだけ見えないよう工夫する。	⑭ 一般区域

■解説

バルコニーに干す洗濯物等は、景観を損なうおそれがあるため、通りから見えないよう、物干し金物を低い位置に設置することや、通りから見えない位置に設置するなどの工夫が必要です。

特に、景観計画重点地区では、視点場からの見え方や街並みの雰囲気を損なわないよう、洗濯物等は、原則、視点場から見えないようにします。

洗濯物を干す位置

視点場から見える洗濯物等は、景観を損なうおそれがある。

手すりに隠れるように物干し金物を低い位置に設置して、洗濯物等が見えないよう工夫する。



布団等を手すりにかけて干すことがありますが、景観を損なうおそれがあります。できるだけ手すりの内側の低い位置に干すなど、景観に対する配慮が必要です。

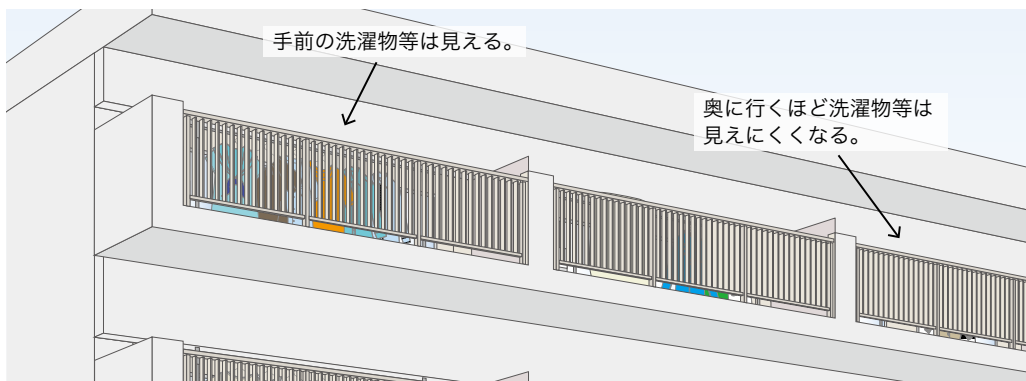
バルコニーの手すり部分の素材例

＜金属系手すりの例＞

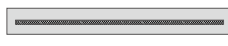
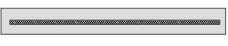
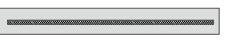
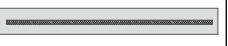
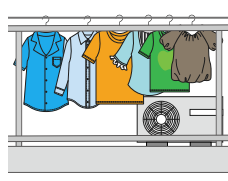
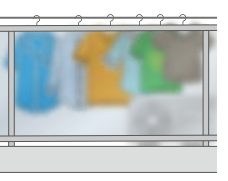
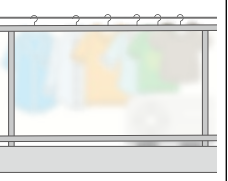
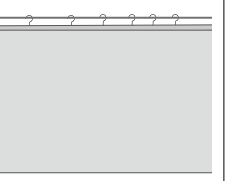
例	アルミ手すり (縦格子)	アルミ手すり (板格子ピッチ広い)	アルミ手すり (板格子ピッチ狭い)	金属パネル
断面				
立面				
特徴	空隙が多く、洗濯物等が見える。	正面から見ると空隙が多く、洗濯物等が容易に見えるが、斜めからは内部が見えにくくなる*。そのため、見る角度によっては、洗濯物等が一度に見えることはない。	正面から見ると空隙が多く、斜めからは内部が見えにくくなる*。そのため、隣接住戸の洗濯物等が一度に見えることはない。	透過せず、洗濯物等は見えない。

※板格子の手すり

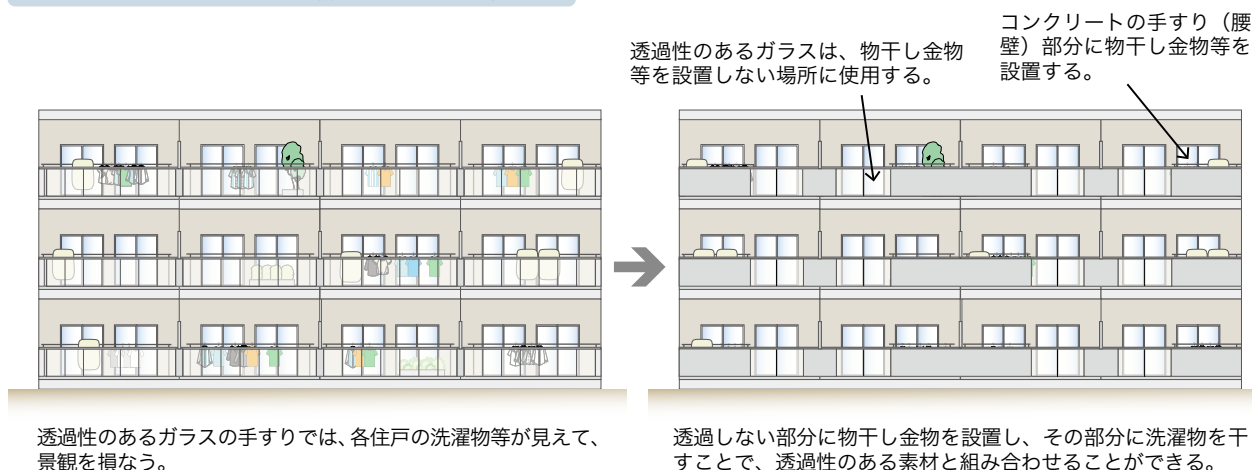
奥行きがある板格子は、正面や手前からは空隙が多く内部が見えるが、斜めからはバルコニーの内部が見えなくなるため、洗濯物等が目立ちにくくなる。



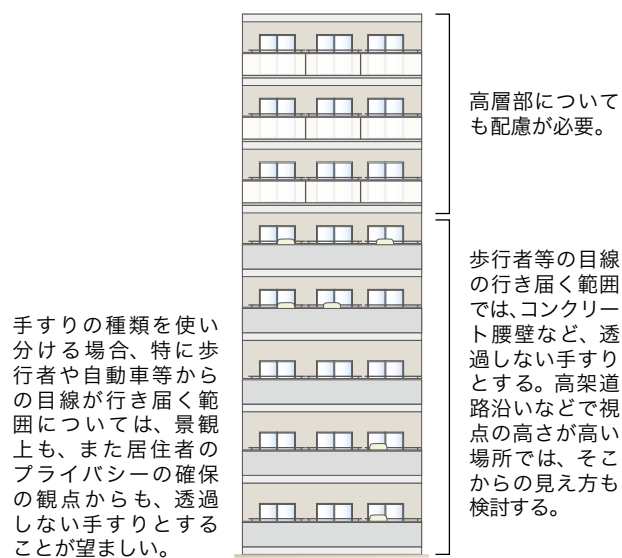
＜ガラス系の手すりなどの例＞

例	透明ガラス	型板ガラス	特殊金属膜 コーティングガラス	乳白色ガラス	コンクリート
断面					
立面					
特徴	透過し、洗濯物等が見える。	ガラスの裏にある洗濯物等の形状がぼやけるが、そこにあることは認識できる。	光が当たると反射により内部が見えにくくなるが、透過性があるため、洗濯物等が見えることもあり、使用にあたっては注意が必要。	透過性はあるが、洗濯物等は見えにくくなる。	透過性がないため、洗濯物等は見えない。

バルコニーの手すりの種類と洗濯物等の見え方



中高層建築物における配慮



マンションやオフィスビルなどの中には、バルコニーがなく、ガラス張りとなっている建築物があります。この場合、家具や家電製品の背面などが外から直接見え、景観を損なうおそれがあります。そのため、腰壁の高さ程度までは、内部が見えにくくなるよう、ガラスの種類を工夫し、窓際の家具類の置き方を工夫するなど、景観への理解と配慮により、より良好な景観を形成することができます。

アウトフレーム工法の建築物の場合、柱面により手すりが分断されるため、洗濯物等が連続して見えず、目立ちにくくなります。



手すり等には、周辺の街並み景観との調和に配慮した素材を使用します。

また、反射率が高いガラスは、光が当たると反射により内部の洗濯物等が見えにくくなりますが、周囲に対して光害等の影響を与えるおそれがあるため注意が必要です。

⑫ ガラス面の広告

景観計画における形態意匠の基準

視点場から見える位置には、周辺との調和を図り、外壁のガラス面の内側に公衆に向けた広告物を表示しないことを基本とする。視点場以外の位置や他の通りから見える位置についても、原則、表示しないこととし、やむを得ず表示する場合は、沿道の街並みや建築物と調和するようデザインを工夫する。

①～⑬景観計画重点地区

通りから見える位置には、原則、外壁のガラス面の内側に公衆に向けた広告物を表示しないこととし、やむを得ず表示する場合は、沿道の街並みや建築物と調和するようデザインを工夫する。

⑭一般区域

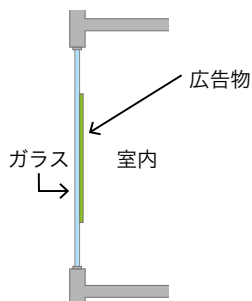
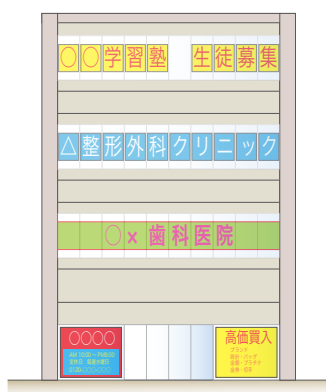
■解説

外壁のガラス面の内側に広告物を表示すると、景観を損なうおそれがあります。

景観計画重点地区では、視点場からの見え方や街並みの雰囲気や損なわないよう、視点場から見える位置には、公衆に向けた広告物を表示しないこととします。なお、やむを得ず表示する場合は、広告物の面積を抑え、色彩に配慮するなど、街並みや建築物と調和するようデザインを工夫します。

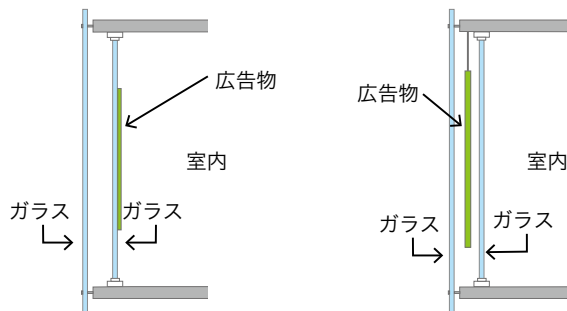
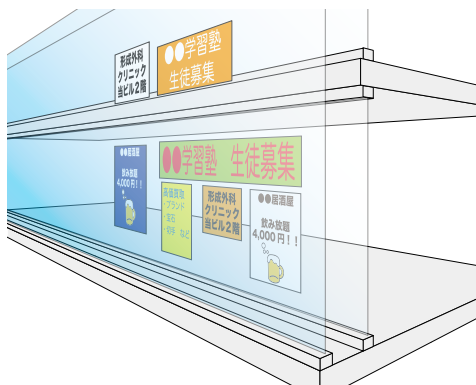
一般区域でも、通りから見える位置には、ガラス面の内側に広告物を表示しないこととします。

窓面への広告物の表示



高彩度色を使った広告物や過剰な数、面積の広告物の表示は、景観を損なうおそれがある。そのため、できる限り彩度を抑え、表示する数、面積を少なくする。

ガラス面の室内側の面への広告物の表示



ガラスが二重に設けられたダブルスキンの内側等に広告物を表示した場合でも、基準の対象となる。

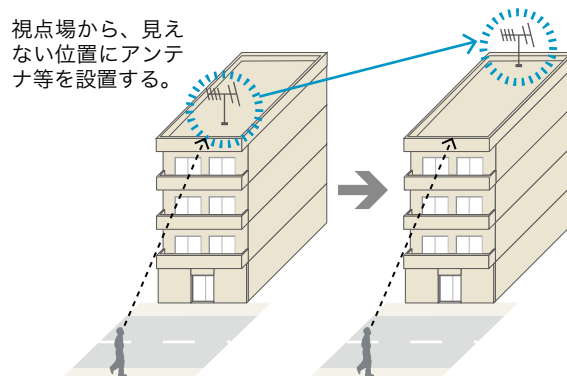
⑬ テレビアンテナ等

景観計画における形態意匠の基準

できるだけ視点場から見えない位置で、景観上影響の少ない位置に設置する。	①～⑬ 景観計画重点地区
できるだけ景観上影響の少ない位置に設置する。	⑭ 一般区域

■解説

建築物の屋上等に設置されることが多いテレビアンテナ等は、無秩序に設置されると、景観を損なうおそれがあります。そのため、視点場や通りから見えない位置に設置します。



⑭ 工事現場の仮囲い

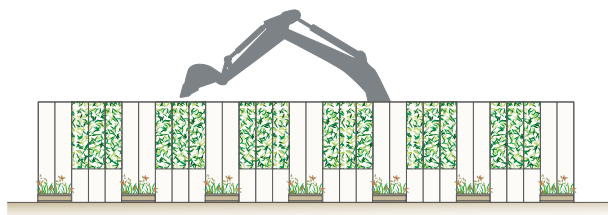
景観計画における形態意匠の基準

工事現場の仮囲いは、周辺景観との調和を図るとともに、必要に応じてデザインの工夫に努める。	全地区共通
--	-------

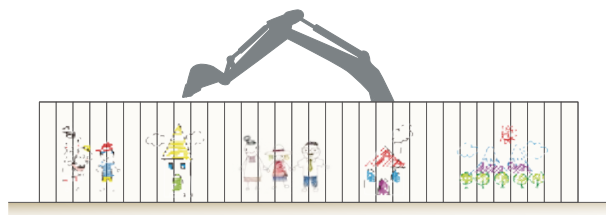
■解説

工事現場の仮囲いのデザインや緑化等により、周辺景観と調和するよう工夫します。

工事現場の仮囲いへのイラスト、写真の表示や緑化等の工夫により、景観に配慮する。



緑化を施した例（イメージ）



写真を表示した例